

横田基地、日本政府による熊本地震救援活動の支援を開始 Yokota aids GoJ with earthquake relief

April 18, 2016

Original text by 374th Airlift Wing Public Affairs

熊本県と周辺地域で発生した一連の地震災害に対する日本政府の支援要請を受け、横田基地第374空輸航空団は4月18日、2機のC-130Hハーキュリーズと派遣要員を現地へ送った。

横田基地の航空機は、被災地での救援活動能力を上げるため、北海道の航空自衛隊千歳基地から九州へと大型車両と人員を空輸。C-130Hは、1機につき最大19トンの物資を空輸できる。

「これらの人道支援任務は、我々がここ(日本)に存在する意味、そして日々の訓練を発揮するものだ。この災害を受け、我々は日本の友人や隣人たちを救援したい気持ちでいっぱいだ」と、第36空輸中隊運用部長のジョン・カー中佐はコメントした。

横田基地の第374空輸航空団は、インド・アジア太平洋地域における主要な空輸のハブとして、これまでも自然災害支援に向かった経験を持つ。2011年3月に発生した東日本大震災では、被災地での人道支援と災害救助活動を行った。2013年、フィリピン・マニラで発生した大型台風の災害では、物資と被災者を安全な地へ避難させる空輸のため、5機のC-130Hを送った。また2015年、ネパールで発生したゴルカ地震での救援活動を行うためにも部隊を送った。

同空輸航空団司令官ダグラス・デラマター大佐は、「横田基地を代表し、被災された方々に心からの哀悼の意を表したい。日本政府の要請に応じて今後もいかなる災害救援活動をも継続していく。痛ましい出来事だが、日本の人々の復興への決意を信じている」と述べた。



横田基地を飛び立って九州の地震被災地に向かうC-130
(Photo/Yasuo Osakabe)